

授業科目 評価学演習（１ 検査測定法）

【担当教員名】 古西 勇	対象学年	2	対象学科	理学
	開講時期	後期（後半）	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	60（検査測定法：15）

【＜概要＞又は＜一般目標：GIO＞】
 体表解剖を基本として、骨、関節、筋及び末梢神経の触診方法及び四肢体幹の整形外科的評価方法、関節可動域測定、徒手筋力検査、神経検査、運動病態に即した各種評価方法、基本的動作と日常生活関連動作の検査測定評価法を静的、動的両面にて習得する。「検査測定法」の評価学演習では、検査測定評価学で修得した基礎知識と手順を応用し、検査測定を通して行うことに慣れ、さらに代表的な疾患・障害を想定して、より妥当な検査測定項目を選択し、評価の記録を模倣し、対象者の全体像をまとめ、個別の理学療法の重点課題を解釈し記述することを修得する。

【＜学習目標＞又は＜行動目標：SBO＞】

1. 関節可動域測定、徒手筋力検査法、反射検査などの検査測定を通して行うことに慣れる。
2. 大腿骨頸部骨折、脳血管障害を想定して検査測定項目を選択し列挙する。
3. 疾患・障害に応じた評価の要点について述べ、状況に応じた検査測定の手順を計画する。
4. 対象者の全体像をまとめ理学療法の重点課題を解釈し記述することを模倣する。
5. 対象者の特徴を考慮して問題点を抽出し治療目標及び治療方針を立案することを模倣する。
6. 学生間で学び合いながら計画的に共同作業に取り組む。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1-2	関節可動域測定	1, 4, 5, 6	演習（グループ）、講義 古西
3-4	脳血管障害の評価（統合と解釈、問題点の抽出、目標設定）	2, 3, 4, 5, 6	演習（グループ）、講義 古西
5-6	徒手筋力検査法、大腿骨頸部骨折の評価（検査測定項目の選択）	1, 2, 3, 6	演習（グループ）、講義 古西
7	反射検査、動作観察と問題の推論、考察	1, 5, 6	演習（グループ）、講義 古西

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書	理学療法評価学【第2版】	松澤 正著	金原出版	2004年 6200円＋税
	新・徒手筋力検査法【原著第7版】	津山直一訳	協同医学出版	2003年 6500円＋税
	ベッドサイドの神経の診かた【第16版】	田崎義昭・他著	南山堂	2004年 7200円＋税
参考書	標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学	内山 靖編	医学書院	2004年 5800円＋税
	関節可動域・筋力検査法	Nancy Berryman Reese著 奈良勲監訳	医歯薬出版	2005年 7400円＋税
その他の資料	プリント			

【評価方法】 出席、提出課題、実技試験、定期試験（筆記）、その他	【履修上の留意点】 医務衣（ケーシー）着用
-------------------------------------	--------------------------